

●Tackle Guide
私はアジやイサキの3本バリ仕掛けを作る場合、必ず先バリにケイムラ、中バリにピンク、上バリにはグリーンの蛍光玉を付けるようにしている。これは魚の食いがどうのこうのと言うよりは、手前マツリしたときにどれがどの位置のハリなのかを分かりやすくするため。けっこう有効ですよ。

私には全くアタらない。タナを2メートルから2.5メートル、3メートルと変えてもダメ。コマセの振り出し位置や、振り方を変えてもみたがダメだった。
このときは潮上の席ではあったが、アジ釣りでは多少の席の優劣があったとしても、これほどアタらないのもおかしい。
「アジは自分のコマセで釣れ」の格言(そんなのあったか?)

ようやく私がアジの顔を見たのは、この後1時間近くたってから。5分少々移動した10メートルダチの浅場でククタン! といつもの数倍小気味よく感じたアタリがあり、25センチ級の丸まる太ったアジを抜き上げた。
よし、これから! と思っっていると、船長から「竿を上げて」とコールがかかる。エツ? と思っっていると、船を少し潮上に走らせ投錨。よほどいい反応だったのだろう。アンカーを打って船を固定しての釣りに移行したのだった。そしてここからは爆釣タイムの始まり始まり。着底後す

▲食べておいしい中サイズがバタバタ食ってきた



ら2〜3メートルです。底に着いたらまず1メートル巻いて、そこから50センチ刻みにコマセを振ってタナに合わせてください。
「アタリを待つときは、竿は海面と平行くらいがアタリも出やすいと思います。海面に向けて竿先を下げてると小さなアタリが取れないですよ」といねいで細やかなアナウンスがある。
そうこうしているうちに15分ほどで釣り場に到着。
「水深は16メートル。タナは下から2〜3メートルでやってください」でスタートする。船長の話では「一週間前まではこの辺りで良型中心によく食ったんだけど、大雨で川の水が大量に流れ込んでから様子が変わった」とのこと。
さあ今日はどんなもんか? と見守っていると、早々に右舷胸の間で22〜23センチの中

で時間も含め手返し勝負。手前マツリのないように仕掛けをさばきアジをハリから外し、ちぎっては投げちぎっては投げのアクセス全開モードで釣ります。
10時半ごろの潮止まりの時、間帯ではやや食いが落ちたが、上げ潮が効き出すとまた食い盛り、12時前に束釣り達成。クーラーもフタが閉まらない状態で一度竿を置いたが、「まだ1時間近くありますよ。店には発泡もあるし」と聞いて釣り続けた。
上げ潮に変わってからはライン引き釣法(になっているのか?)への反応がよくなった。相変わらずラインを引いている途中でのカウンターパンチも多く、20センチ前後のやや小型も多くなってきたがほぼ空振りなしで釣れ続けた。
結局12時45分の納竿時間ま

●船宿information
東京湾奥長浦
こなや丸
☎0438-62-2707
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=ショートライトアジ乗合一人9700円(コマセ、アオイソメエサ、水付き)
▶備考=予約乗合、6時出船。別船はルアーチャウオヘ

で竿を出し続け釣果は138尾。噂に違わず型もよく、23〜24センチ級を中心に30センチオーバーの大アジも交じった。23〜24センチ級は家庭でさばくには最も適した扱いやすいサイズで、味のほうでも間違いのないサイズと言え。もちろん私もアジフライ、タタキ、塩焼きと旬のアジを堪能した。
アジフライはフワッフワツツ、タタキはしっとり、塩焼きはジュワッと「脂の乗ったアジが大好き」な私は湾奥のアジ最高! を再認識した次第。こなや丸へはアクアラインを渡り「袖ヶ浦」ICを降りてから15分足らず。神奈川や東京西部からも行く価値大いにありますよ。



▲東京湾のライトアジは釣っても食べても今が最高

12時前に束釣り達成
「アジは自分のコマセで釣れ」の格言(そんなのあったか?)

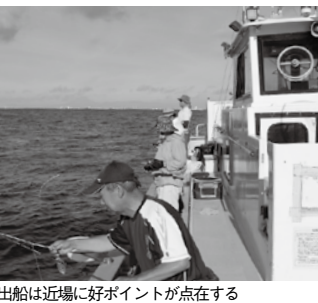
東京湾奥でアジを狙う船は多い中、今回訪れたのは長浦のこなや丸。地先に多くのポイントをも有し、
「走っても30分、たいていは15分前後の近場でやります。水深も冬場は25メートル前後を狙うこともあるけど、それ以外の時期は15メートル前後なのでウチのビシは30号です」とライトアジの中でも屈指のライトっぶり。
それでいて釣れるアジは25

センチ近い良型中心というから楽しめた。
なんでアタリがないの!?
小沢一滋船長の操船で6時ごろ出船。港内をスローで航行中に、
「エサのアオイソメは小さく切って使ってください。米粒大、大きくても1センチでいいですよ。ハリにも通し刺しでタラシはいりません」
「タナはどのポイントも底か

食いが立てば入れ食い全開 湾奥アジはやっぱり最高!

●東京湾奥長浦発!長浦沖
フィッシングライター 柏川晃 Akira Kasukawa

アジの付けエサ考
知得! This and That
▲アオイソメは小さく付けるのが主流
昔からアオイソメはビシアジ釣りのエサとしてあったが、あくまでもサブ的な存在だったように思う。しかし最近のライトアジ船ではメインエサの扱って、こなや丸でもアオイソメが付けエサとして配られる。
以前からアオイソメが有効なのは濁り潮時と言われてきたから、潮が濁っていることの多いライトアジの主戦場、湾奥のメインエサとなるのは必然か。
また以前は「アオイソメはハリからのタラシは1〜2センチ」とされていたが、最近では1センチ以下と小さくカットしハリのフトコロにタラシを通して通し刺しにするのが主流だ。アジは普段からアオイソメを常食としているわけではなく、コマセの一部として食べるのだから、ウネウネと動く必要もないからだろう。



▲長浦出船は近場に好ポイントが点在する

「実績ポイントを中心に探ってます。魚探に反応がなくてもソナーに反応があれば、コマセに寄ってすぐ船下に集まってくるんだけど、今日は今のところ反応が薄いですね」と船長。
また「今はアジが船下に着いている状態じゃなく、移動してきた群れがコマセエサを拾って食べている状態。こんなときには仕掛けを動かし過

ぎちゃあダメですよ。コマセの中に仕掛け(付けエサ)を入れること、同調させることを意識して」とのアドバイスもあった。
4カ所目からは私も竿を出す。ここでもポツリポツリで相変わらず間違いがアジは釣れている。
ところがどうしたのか、

●かすかわ あきら/今回お気に入りのハリ外しを4回も海に落としてしまった。幸いにして海に浮くタイプで、アンカリングと潮がそれほど速くなかったことに助けられ、その都度タモですくってことなきを得たが、ボケが始まったのかな〜。